

一中地区	三中地区	
中根 浩	横張 一樹	小島 雄輔
◎鈴木 清	土田 實	野口 貴代
古徳 洋一	的場 淳	浅野 弘樹
石原 宏紀	保坂 進	五中地区
小林 まゆみ	小林 薫	野口 卓志
大森 利浩	中村 宏幸	藤井 輝夫
石塚 智康	仕黒 弘志	八尾 慶太
鈴木 亮	金澤 みゆき	篠田 恵一
内藤 歩	平野 篤	鈴木 夏子
伊藤 香	藤田 太郎	清水 和代
二中地区	中島 俊弘	吉田 浩正
○知久 哲也	四中地区	六中地区
清水 裕美	吉田 実	小口 範男
嶋田 文江	那珂 伸一	佐藤 均
飯塚 健太郎	以後崎 照	池崎 洋市
坂寄 弘和	名知 原利和	中嶋 洋
町田 幸生	田中 義法	縄野 昌紀
飯田 洋一	小林 豊	池田 純
小泉 仁奈	臼田 周平	飯島 洋介
		岡部 健治
		坂本 敦史
		齋田 俊一
		都和中地区
		○渡邊 喜世志
		原 市代
		栗山 良一
		富島 進
		窪田 智
		竹内 靖揮
		藤田 久樹
		北谷 義貴
		新治学園地区
		来栖 孝
		北野 善彦
		須藤 隆
		内海 裕治
		渡邊 賢樹
		郡司 紀文
		金子 泰也
		岡部 健治

令和7・8年度 広報部会員

- 部会長 知久 哲也（二中地区）
副部会長 以後崎 照（四中地区）
石原 宏紀（一中地区）
会計 野口 卓志（五中地区）
委員 内藤 歩（一中地区）
町田 幸生（二中地区）
中村 宏幸（三中地区）
金澤みゆき（三中地区）
野口 貴代（四中地区）
小野 英明（五中地区）
飯島 洋介（六中地区）
坂本 敦史（六中地区）
富島 進（都和中地区）
竹内 靖揮（都和中地区）
郡司 紀文（新治学園地区）
岡部 健治（新治学園地区）

編集後記

都和中地区 富島 進

この度は委員の皆様のご協力により、「さわやか土浦」第15号を発行するに至りました。ここより感謝申し上げます。

スポーツ推進委員を務めさせていただき今年で3年になります。当初は土浦市のスポーツを支える組織体制や地域のスポーツ活動など分からないことだらけで不安もありましたが、推進委員の皆様や地域の皆様に支えられて遂行することが出来ました。

これからも、各地区や土浦のスポーツの発展に努めていきたいと思ひます。

土浦市のスポーツ活動について、充実した広報誌をお届けできますように、引き続き皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

第 15 号
発行
令和8年1月1日
発行所
土浦市スポーツ推進委員協議会
編集
広報部会
事務局
土浦市教育委員会スポーツ振興課内
土浦市スポーツ推進委員広報部会
TEL 029-826-1111



ご挨拶
土浦市長 安藤 真理子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
皆様におかれましては、令和8年の初春を健やかに迎えのことと、お慶び申し上げます。

土浦市スポーツ推進委員の皆様には、日頃より、市民の体力づくりとスポーツ・レクリエーションの振興に、多大なるご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

また、この度、長年のご功績により酒井克之地区委員長が関東スポーツ推進委員功労者表彰を受賞され、そして嶋田文江委員、小口範男委員が茨城県スポーツ推進委員10年勤続表彰を受賞されましたことは、誠に喜ばしく、深く敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、本市では、昨年7月に「かすみがうらマラソン兼国際ブランドマラソン」、「びわ湖マラソン」（滋賀県）「サロマ湖100kmウルトラマラソン」（北海道）の3者による「日本3大湖マラソン」の連携協定を締結いたしました。この協定締結を契機として、相互の連携と交流を促進し、本大会のさらなる魅力向上につなげていきたいと思ひます。

今後も、市民の皆様がスポーツに親しむことができるよう、様々な事業に取り組んでまいりますので、皆様方におかれましては、本市のスポーツの振興に一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに皆様方にとりまして、本年が輝かしい実りある一年になりますことを心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶
土浦市教育長 入野 浩美

「さわやか土浦第15号」発行おめでとうございます。

土浦市スポーツ推進委員の皆様には、日頃より地域のスポーツ推進役としてご協力いただき誠にありがとうございます。さらには、皆様のご理解とご支援により各事業が円滑に進められておりますことを、重ねてお礼申し上げます。また、スポーツ推進委員として、長年地域スポーツの振興に尽力され、この度、関東スポーツ推進委員功労者表彰を受賞された酒井克之委員をはじめ、嶋田文江委員、小口範男委員が茨城県スポーツ推進委員の10年勤続表彰を受賞されことにおかれましては、誠にめでとうございます。

さて、スポーツ界を振り返りますと2025年は国内外で多くの感動がありました。野球界では、大谷翔平選手が全米プロ野球ナショナルリーグで満場一致によるMVP受賞を果たし、日本人選手として歴史的な一歩であり、子どもたちや地域の皆様に大きな夢と勇気を与えてくれる存在となっております。

スポーツは、心身の健全な発達に資するとともに、明るく豊かで活力の満ちた社会形成に大きく付与し、健康づくりの一翼を担うものでございます。そうした中で、スポーツ推進委員の皆様方におかれましては、地域の絆を深める活動の担い手として大きな期待が寄せられております。

今後も、地域スポーツ推進のためにご活躍されますことをお願い申し上げますとともに、皆様方の益々の健康とご活躍、ご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。



ご挨拶
土浦市スポーツ
推進委員協議会

会長 鈴木 清

新年明けましておめでとうございます。
土浦市スポーツ推進委員の皆様におかれましては
令和8年の初春を健やかに迎えのことと、お慶び
申し上げます。

また、日頃から市民の体力づくりや地域スポーツ
の推進、レクリエーションの振興などにつきまして
多大なるご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、昨年の9月に国立競技場を主会場に開催さ
れた「2025年世界陸上競技選手権大会」では、
世界のトップアスリートが集い、記録更新や歴史的
な瞬間が次々と生まれました。大会では、53カ国が
メダルを獲得するという過去最多の記録となり、世
界のスポーツ界から大きな注目を集めました。

4月に開催された「かすみがうらマラソン兼国際
ブラインドマラソン」では、全国からランナーが集
い、沿道、ボランティア、地域住民の皆様の温かい
応援と、13年ぶりに出場したプロランナーの川内優
輝選手がフルマラソンの部で優勝し大いに盛り上が
りました。

結びに、「さわやか第15号」の発行にあたり、ご
尽力をいただきました広報部員の方々をはじめ、原
稿を執筆いただきました委員の皆様にご心より感謝を
申し上げます。

関東スポーツ推進委員功労者表彰



酒井 克之

(新治学園地区)

令和7年6月27日山梨県小瀬スポーツ公園武道館アリ
ーナに於いて、令和7年度関東スポーツ推進委員研究大
会山梨大会が盛大に開催されました。そこで、令和7年
度、関東スポーツ推進委員協議会表彰を受賞しました。
このような機会をあたえてくださった土浦市スポーツ推
進委員の皆様を始め、ご推薦いただいた多くの関係者の
皆様に心より感謝申し上げます。

平成12年に旧新治村から体育指導委員の委嘱を受けて
25年微力ながら推進委員として努めてまいりました。

最初は、仕事の関係でなかなか各行事に参加できない
状況でしたが、多くの、先輩方からのご指導を受け活動
することができました。

私、昨年度の4月をもちましてスポーツ推進委員を退
任致しましたが、これからも地域の皆様の健康維持増進
や体力向上の取り組みに対し健康で充実した日々を過ご
してまいりたいと思います。

また、平成12年に新治柔道スポーツ少年団を設立し、
現在も指導者兼事務局として少年団育成のため携わって
おり、一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを、スポ
ーツを通して、青少年の健全育成を目指し、今後も微力
ながら地域スポーツの推進に尽力できればと思います。
最後に、土浦市スポーツ推進委員協議会の、益々の発
展と皆様方のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げます。

茨城県スポーツ推進委員協議会 10年勤続表彰



嶋田 文江

(二中地区)

10年前の次男の運動会の時にお誘いを受け
たのが始まりでした。お受けした時はこま
で続くとは思ってなく、この度、表彰され
ると聞き驚きと共に、ここまで続く事ができ
たのは前・現委員の皆様のお陰だと心より感謝
しております。新型コロナ禍という厳しい状
況を経て、活動再開となりましたが、今後も
地域の皆様が安全に楽しく参加できるよう努
めて参ります。この度はありがとうございます。



小口 範男

(六中地区)

この度10年勤続表彰をいただきましたが、
近年人と人との会話が薄れていく中、スポ
ーツ活動を通じて多くの地域の方々が触れ合い
親睦を深めて地域活性化に繋がりと感じています。
また、少子高齢化に伴い、競技人口が減少し
ている中、種目見直しなどを検討し、地域の
方々の健康及び地域活動の活性化のため、微
力ながらお役に立てるよう努めて参りますの
で宜しくお願い致します。

新 任 委 員 紹



新治学園地区
岡部 健治



六中地区
齋田 俊一



五中地区
吉田 浩正



三中地区
中島 俊弘



二中地区
小泉 仁奈



二中地区
飯田 洋一



一中地区
伊藤 香

特集 スポーツ推進委員って何？

ここでは、スポーツ推進委員の役割等を改めて紹介します。

「一 スポーツ推進委員とは」

スポーツ推進委員とは、スポーツ推進
スポーツ基本法第32条により地域スポ
ーツの推進を図るため、各市町村から委嘱
を受けて活動する非常勤公務員です。

「二 スポーツ推進委員の役割」

スポーツ推進委員は、住民のスポ
ーツ振興に関し、その分担する地域又は事項
について次の職務を行っております。

- ① スポーツ推進のための事業の実施に
係る連絡調整を行うこと。
- ② 市民の求めに応じてスポーツの実技
の指導を行うこと。
- ③ 市民のスポーツ活動の促進のための
組織の育成を図ること。
- ④ 学校、公民館等の教育機関その他の
行政機関の行うスポーツに関する行
事又は事業に関し求めに応じて協力
すること。
- ⑤ スポーツ関係団体その他の団体の行
うスポーツに関する行事又は事業に
関し求めに応じて協力すること。
- ⑥ 市民に対しスポーツについての理解
を深めること。
- ⑦ 上記に掲げるもののほか、市におけ
るスポーツの推進のための指導及び
助言を行うこと。

令和8年度 事業計画

- 4月19日【川口運動公園】
第36回かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン
- 5月上旬【新治学園地区】
土浦市スポーツ推進委員協議会総会・中央研修会
- 5月下旬【場所未定】
茨城県スポーツ推進委員協議会理事会・総会・功労者表彰
- 5月下旬【場所未定】
県南スポーツ推進委員協議会理事会・総会
- 6月27・28日【栃木県宇都宮市】
関東スポーツ推進委員研究大会栃木大会
- 11月5・6日【群馬県高崎市】
全国スポーツ推進委員研究協議会群馬大会
- 1月中旬【土浦市】
土浦市スポーツ推進委員協議会理事会・新春の集い
- 2月下旬【場所未定】
茨城県スポーツ推進委員協議会研修会
- 日付未定【取手市】
県南スポーツ推進委員協議会地区別研修会

高齢者体力測定と運動会を通して
六中地区 飯島 洋介

9月末に小学校体育館において高齢者を対象とした体力測定会を実施しました。歩行速度や腹筋、立位体前屈、握力など、身体機能の現状を数値として「見える化」し、ご自身の健康状態を知っていただくことを目的とした取り組みです。

当日は多くの方々にご参加いただき皆さん真剣な面持ちで各種目に挑戦されていました。「前よりもできなかった」と悔しそうに話す方、「思ったより良かった」と笑顔を浮かべる方などさまざまな反応が見られました。こうした“気づき”が、日々の生活を見直す大切なきっかけになると感じております。



そして、測定が終わったあとは、地区ごとのチームに分かれて「高齢者運動会」を行いました。輪投げやボウリングといった種目があり、笑い声や拍手が溢れる、とても楽しい時間となりました。競技をしているうちに自然と声をかけ合う姿も多く見られ、ふだんはあまり話す機会のない方同士

の距離がぐっと縮まったように感じました。「昔を思い出した」「こういうのもたまにはいいね」といった声も聞かれ、やってよかったなと思えるひとときでした。

年を重ねると、どうしても体が動きにくくなってきましたが、ちょっとした運動を続けたり、人とおしゃべりしながら体を動かすことが、元気を保つ秘訣だと思っています。今回の体力測定と運動会が、「自分の体のことを知る」と同時に、「みんなで楽しむ」ことができる、良い機会になったと感じています。

今後も、地域の皆さんが気軽に参加できる場を継続してつくっていきたいと考えています。スポーツ推進委員として、一人ひとりの健康づくりを支えるとともに、運動を通じて人と人とのつながりや、地域全体の元気を育む活動を大切にしていきたいです。運動が「特別なもの」ではなく、日常の一部になるよう、地域の皆さんの声に耳を傾けながら、これからも工夫をこらして取り組みでいきたいと思っています。



令和7年度総会・中央研修会
研修種目は「救命講習」
都和中地区 富島 進

令和7年5月10日に土浦市スポーツ推進委員協議会の総会及び中央研修会を都和小学校体育館において実施しました。毎年、総会及び研修会は輪番制で行われており、今回は都和中地区が当番となりました。

総会では、昨年度の事業及び決算報告、今年度の事業計画及び予算案が審議され、提案通り議決されました。

平成23年9月、さいたま市の小学校で当時6年生の桐田明日香さんが、駅伝の課外練習中に倒れ、死亡するという事故がありました。検証の結果、明日香さんが倒れた直後に痙攣や死戦期呼吸と呼ばれる、ゆっくりあえぐような呼吸があったため、先生方は心臓が止まっているとは思わずに、AEDを使わなかったことがわかりました。この事故の反省をふまえ、さいたま市教育委員会は、ご遺族と共にASUKAモデルを作成したそうです。このテキストは、今回使用したアツバくんを使つての心肺蘇生法です。

今回、渡邊委員長長の提案で心肺蘇生法にしました。私たちスポーツ推進委員はスポーツの推進に携わっています。その際に起こり得る不慮の事故に対応



たことで、身近で倒れ痙攣や死戦期呼吸が起こった場合は、救急車が到着するまでの間、心臓マッサージやAEDを使つての心肺蘇生を実施していかねければならないことを学びました。

今後も安全安心な環境の元で地域の人たちがスポーツを楽しんでいけるように尽力していきたいと考えます。



そのためにも土浦市スポーツ推進委員協議会では、さらに研鑽していかねばならないと思います。

スポーツ推進委員となつて
新治学園地区 岡部 健治

本年度より新治学園地区スポーツ推進委員を受嘱しました岡部健治と申します。前スポーツ推進委員長を務めました酒井さんがご勇退され、後任委員として拜命を受け、身の引き締まる思いです。これまでも市民委員会のスポーツ健康部員として各事業に参加しておりますので、その経験を活かしていければと思っております。

就任して間もなくの「かすみがうらマラソン大会」では、ランナーの安全を確保するためコース沿道で走路員を務めました。ランナーとして10年ほど参加し沢山の感動を頂きましたが、走路員としての責任の重さと一万ものランナーの様々な表情が印象的でした。仮装されている方、ごみ拾いしながら走られている方、沿道の市民にプレゼントを配る方など、マラソンを通して様々な楽しみ方がある事に感動させられました。

これから迎える秋冬には新治学園地区では毎年恒例の三大イベントが行われます。

1つ目は、10月12日に行われた「新治地区市民体育祭」です。快晴の空の下、老若男女、沢山の参加者によるス

関東スポーツ推進委員研究大会
四中地区 以後崎 照

令和7年度関東スポーツ推進委員研究大会が6月27日、28日、山梨県甲府市にて開催されました。

「スポーツと文化の融合」をテーマとした大会へ、1都6県の委員達を迎えてくれたのは、甲斐の国武田信玄の故郷に相応しく、武将姿の飯田会長とスコップ三味線奏者の勇壮な姿での圧巻の演奏でした。

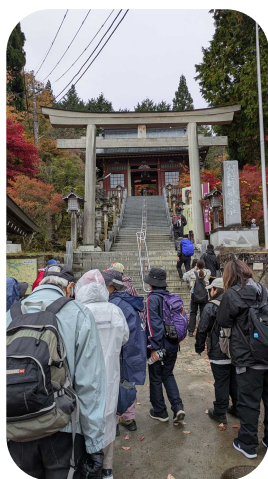
開会式・表彰式と進み、茨城県から6名の方が受賞され、その1人に新治学園地区の酒井克之さんが長年の地域スポーツの振興にご尽力され功労者表彰を受賞されました。おめでとうございました。

その後、「子ども笑顔が輝く社会」をテーマに2つの基調講演と「地域を生きかし地域を元気に」を題してパネルディスカッションが催されました。



スポーツの祭典がつつがなく行われました。

2つ目は、11月9日に行われた「県外歩け会」です。今年は参加人数27名にて青梅市の御岳山でのハイキングとなりました。小雨降るあいにくの天気でしたが、全員歩き切ることができました。



3つ目は、1月3日に予定の「新春歩け会」です。新治地区公民館から筑波山神社入口迄の片道約16キロを各々のペースで踏破し、参加者全員でカレーライスの昼食後、お楽しみのお新春大抽選会の運びとなります。

今後も地域の皆さんが積極的に参加できるイベントを開催し、健康促進とコミュニケーション作りに努めていきたいと思います。



いつでもどこでも起こりえる天災、少子高齢化など現状を捉えて、未来ある子どもたちと地域活性化への取り組みへの貴重な講演と意見交換の場だったと思います。

2日目は、「エスニック・ツーリズム」現地の文化を学ぶ旅」をテーマとして、6つの分科会が催されました。



山梨の豊かな自然や歴史を散策しながらの実技での分科会は、日本遺産や世界農業遺産など各地域の特色を生

かし、スポーツと観光の融合や、自然の美しさと歴史的背景を体感し、心身ともにリフレッシュするなど、魅力ある山梨を堪能しました。

今回、土浦市から19名が参加し、自然を満喫しながらコミュニケーションがはかられ有意義な時間が過ごせました。



栄光の欠け端

一中地区 小林 まゆみ

スポーツには、個人が持つ素質によって適正競技があるが、個人の性格に沿った競技選びが大事だと言う。

そもそもスポーツの素質はあれど、争い事が苦手な人も多い。人と争う競技と云えば格闘技。ボクシングやレスリング、柔道、相撲が代表的だが、ラグビーはもちろん、バスケットも格闘技である。

バレーボールという競技が生まれた理由は、バスケットボールが苦手、つまり格闘技が苦手な者のためにできたという。なるほどね。ネットを隔てて手足は出せない。「あっかんべー」ならできる。

我家の家主は小学生わんぱく相撲大会（県大会）で優勝し、中学時は硬式野球シニアリーグ東日本の優勝投手だった。

進学後、弱気な性格ゆえ強豪校の気迫に圧倒され退部してしまった。その後、恩師に勧められたレスリングで県代表となるも、決勝のマットで負けた相手の涙に涙し、またもや退部。

呆れた恩師が「もう人と争うな。自分の記録と戦え」とウエイトリフティングを勧めた。

地域スポーツの力で

元気なまちづくりを

三中地区 小林 薫

スポーツ推進委員として活動を始めて5年目を迎えました。新型コロナウイルスの影響で、当初は地域のスポーツイベントが相次いで中止や縮小となり、活動の機会は大きく制限されました。近年は少しずつ再開してきていますが、参加者数はコロナ禍以前には戻らず、今年度予定していた野球大会もチーム数がそろわず中止となっていました。市民体育祭についても、時間を半日に短縮し、競技種目を絞って実施しました。

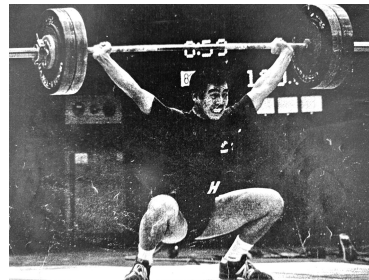
各地区の子ども会の解散により小学生の参加者は減少し、高齢者の参加も控えめな状況です。誰もが気軽に参加できる競技や仕組みを考えることが、今後の大きな課題だと感じています。そのような中でも、私たちスポーツ推進委員は、地域の皆様の健康づくりと交流の場を守るために、魅力あるイベントの企画・運営に力を注いでいます。少子高齢化や生活スタイルの変化



競技人口が少ないゆえ、県大会を難なく勝ち進み、インターハイ並びに国体優勝、大学では4年連続インカレで優勝し、アジア大会へ出場した。

ソ連（現ロシア）オリンピックの候補選手となり地獄の強化トレーニング後いざロシアへ！ところが、日本はロシア五輪を不参加。ここで彼の競技人生の幕は閉じられたのだった。

したのか？しなかったのか謎の「努力」も、マイナー競技とはいえ、それなりの「栄光」も「目標」も全てが、「まぼろし」となって消えた。



現在66歳。あの頃の魅力はもちろん、目標も体力も気力も覇気も何もない。髪の毛さえ1本たりとも残っていない。「決して女房と争うな。自分の限界と勝負しろ」と、結婚当初、恩師に代わって指導した私の助言（名言）通り、私と争うことは決して無い。ひたすら笑顔だ。そんな情けない笑顔を見ながら思うことは「人は、目的意識を持ち続けることが大切である」ということです。

により、特に高齢者の皆様は体力的な不安や感染症への懸念から外出を控える傾向が強まっています。だからこそ、「安心して参加できる環境づくり」がこれまで以上に重要です。短時間で気軽に参加できる運動、家族で楽しめるイベント、新しいスタイルの取り組みなど、地域のニーズに寄り添った柔軟な工夫を重ねてまいります。



スポーツは健康の維持・増進に役立つだけでなく、人と人をつなぐ大切な架け橋でもあります。三中地区のスポーツ推進委員は、ポッチャ大会をはじめとしたさまざまなイベントを通じて、地域の健康と福祉の向上に努めてまいります。これからも皆様のご理解とご協力をいただきながら、笑顔あふれるまちづくりに貢献していきたいと考えています。

スポーツでつなぐ地域の輪

二中地区 小泉 仁奈

本年度からスポーツ推進委員を務めることになりました。地域の皆さまに支えられながら、スポーツの楽しさや健康づくりの大切さを伝えていけるよう、微力ながら精いっぱい努めてまいります。分らないことも多いですが、先輩方から学びながら、一つひとつの活動を大切に、地域の笑顔が増えるような取り組みができればと思います。

私は現在もバレーボールを続けています。練習を重ねても思うようにプレイできず悔しい思いをしたことや、怪我に悩まされた時期もありましたが、仲間と励まし合いながら乗り越えた経験は、今でも私の原動力になっています。チームで力を合わせ、ひとつのボールをつなぐバレーボールは、まさに「協力と信頼のスポーツ」です。その経験を通して、努力を続けることの大切さや、人とのつながりの尊さを学びました。

スポーツ推進委員になる前から、地区のスポーツ行事に参加する機会が多く、スポーツの魅力が競技だけにとどまらないことを強く感じています。季節ごとに



令和7年度中央研修会を受けて

五中地区 清水 和代

令和7年5月10日、雨天の中、土浦市スポーツ推進委員協議会の総会及び中央研修会が都和小学校体育館で開催されました。

この総会は、市内8地区の輪番制で行われており、今年は都和中地区が当番でした。総会後の中央研修会で実技研修で心肺蘇生法を中心とした救命処置法を学びました。

土浦市内の消防署から救急救命士を講師として呼んでいただき講習を受けました。

実技を中心とした講習で今まで「心臓マッサージ」と思っていた心肺蘇生



開催される健康づくりイベントや市民体育祭や球技会など、たくさんの行事があります。こうした行事は運動を楽しむだけでなく、世代を超えて人々とがふれ合う貴重な場でもあり、地域の力を実感します。

近年は運動の機会が減り、地域でのつながりも薄くなりがちです。だからこそスポーツを通して人が集い、自然と声を掛け合えるような場を守り育てていくことが、今の時代にこそ必要だと感じます。誰もが気軽に参加できる行事を通して、「体を動かすことは楽しい」と感じてもらえることを願っています。



スポーツには、心と体の健康を育て、人と人をつなぐ力があります。これからも地区の行事を大切にしながら、スポーツの魅力を多くの人に伝え、誰もが笑顔で過ごせる地域づくりに貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



が現在では「胸骨圧迫」ということを初めて知りました。すこく力を入れ人形の胸骨を圧迫することを学び、加えてAEDで電気ショックをあたえ蘇生していくことを学びました。

こうした救命処置は毎年行われる地区のスポーツ行事が行われる中心肺蘇生をしてきた場面は無いことにこうしたことはありませんが、もしそういう場合に遭遇した場合に落ち着いて対処できるかまだ不安はありますが、8名のスポーツ推進委員で協力して対処していきたいです。



最後に今年度も多くのスポーツ行事を通して地区の人々の絆等の社会貢献をしていきたいと思っています。

